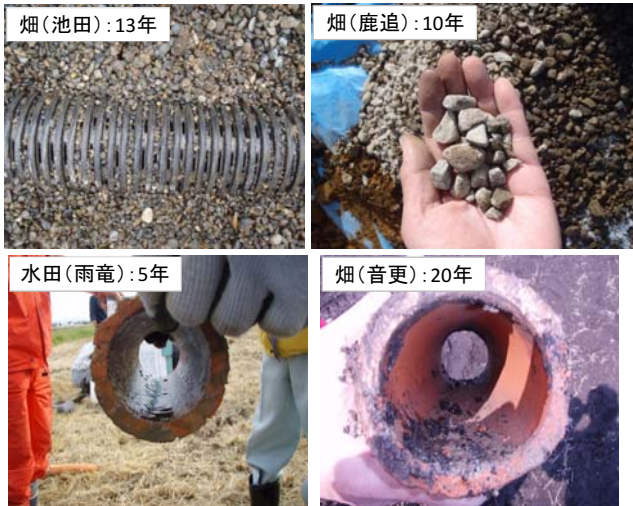


既設の暗きよはどうなってる？

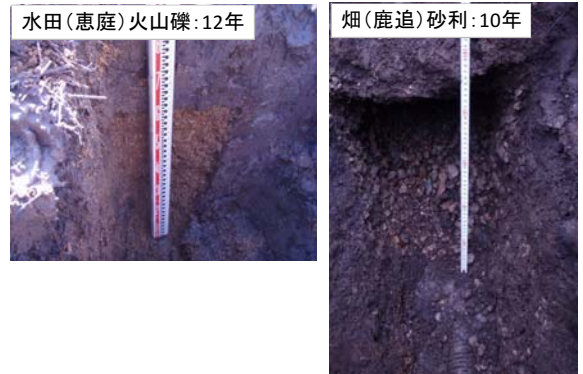
平成22年度～平成25年度にかけて、北海道は全道各地の疎水材暗きよを施工した水田と畑（転作畑、牧草畑含む）72ほ場において暗きよ管上面まで掘削し、疎水材の状況やその周辺土壌の硬さ、透水性などを調査しました。

調査結果のポイント

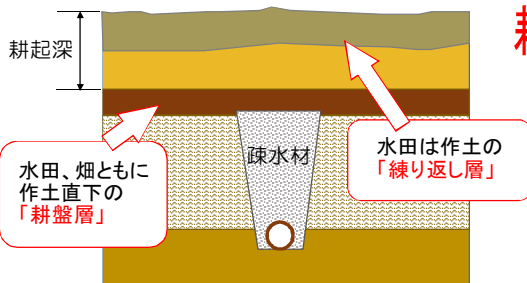
① 暗きよ管の詰まりや疎水材の目詰まりはほとんど見られません。



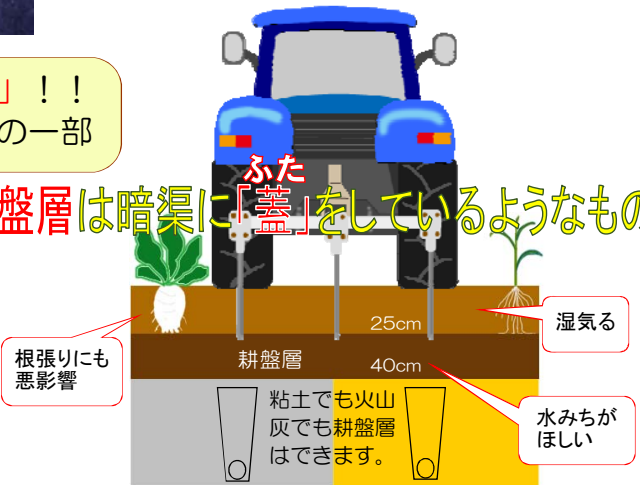
② 砂利、火山礫、貝殻などの疎水材は10年以上経過しても施工時の断面を維持しています。



③ 排水不良の要因の大半は、「耕盤層」！！
水田の場合は「練り返し層」も要因の一部

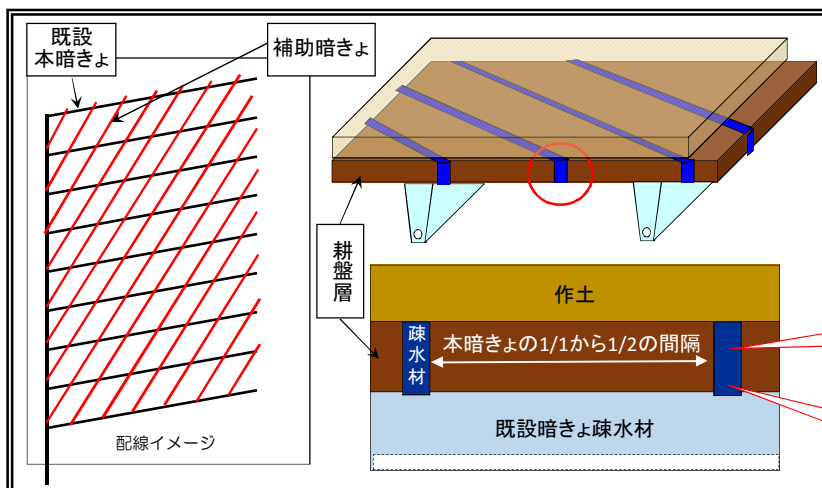


耕盤層は暗渠に「蓋」をしているようなもの



暗きよが効かないから「また暗きよ」はもったいない！
既設の暗渠が疎水材型なら安くて排水効果を上げられる補助暗きよを！！

◎ 既設暗きよの補助暗きよを提案します。



補助暗きよの配線間隔は、本暗きよの1/1から1/2を基本とします。

本暗きよの施工費に比べると2/3～1/2程度の費用で施工できます。

(工法や疎水材の種類等により)

この部分の整備により既存暗きよの機能を回復できます。

耕盤層を突き抜け、作土と既設疎水材をつなげます。